歌舞岐三弁通

和装本
チ 13
4042

歌舞岐三升通

和装本
チ 13
4042

歌舞岐三升通

門 チ 13
號 4042
卷

京都帝國大學圖書館
昭25.12.8
購入

○白樓をとふらふ賦　青藍窩

蓬ヶ丘五百崎おもふ事あり
門雪花乃こゝ川ながとす
心ハ世の夢ゆめ物ゆめをきちて
夷曲俳諧ゆこゝ遊ぶ
和歌は卜養の跡をまなび
俳諧ゆ晋子ゆ
毎常ゆ風ふちふ
八百八ちゆ人袖ゆ乃ゆ

向嶋隠居之像
葛飾北齋寫之

白樺紙をしきしめる人ハ
東東南蠻北秋西戎　月池　風巣山人

○この狂歌とおもうまし〻ハ英人全ちがへ
ま千のくてるに世界定ちとハ

いにしへの不淮が朝清をきかせ
顔見せまへうし極楽　楊柳亭

○

名とのこす人も
ふつゝ竹橋ぐら　幸崎屋　幸崎

ちちくさのなく
ちくよまもうの南

白樫をいろどる市川流のあるじ八根の国産より
国まで ひびきわたれ 浄瑠璃を さぐるうたて
大芝居 広間 広間 宮 さぐるく 天王立ち
さらぐらん 十まもり やうく 蓋尾 大谷 牛若
ゆるゝ 鏡 赤鬼 変せ のうま 玉子 美まさ
遠 天て 今より 塚ハ 大形 のりたて
ふしませて

反歌

大太刀を抜とぬきたいなめ なる国かぐ 鼻ま 地蔵

年ゝ斎稲葉

○

八千代まで[illegible]江戸の花と見
[illegible]玉つばきさちかぜそよぐ

木の
景吉

秋長谷[illegible]六部乃乳出の旅
[illegible]遠のそ邦 月白樓

入手
信成

[illegible]盤乃玉乃滝[illegible]
[illegible]ちく[illegible]て我も[illegible]ん

手下
商人

[illegible]世代[illegible]
[illegible]や[illegible]

棚引亭
嘉住

[illegible]
[illegible]

始之

○八丈島八男主乃衣裳[illegible]
勝の下社奥[illegible]
[illegible]

千里亭
藪風

追善の為朝[illegible]
[illegible]

○

[illegible]地[illegible]
[illegible]坊[illegible]

里洲

○

助六の[illegible]
[illegible]尺八[illegible]

奈良部
數有

紫[illegible]
[illegible]

再[illegible]乃雲

[illegible]

○

白猿蓮の花道ゑ座して日々至今晩
二ッ七日即席俳諧臨終まぐ狂歌門院の
別荘成田屋七蔵とゝ我保隠居當
年つかれ〳〵六十八ぢゝんと弥陀様ま
をあいじゆムりまぬ

貢菴

閻王も牛頭冥官も　卷土則次

一トあゝみ

極楽世ゝゝ

ゆゝゝ地顔見勢

支市川白猿八敬亀乃教主ともいつ〳〵微妙の
音声舞姿は獅子は高座より崩本尼
ゑれた敬白のとり如八諷誦乃之寶衆僧了
叶ふされど沙羅双樹乃時来りては世代あの
世へうえ故乃書の林と入さらい我が先生
馬馬市川一流の狂言ふとそく追悼の者
ちと人〳〵に以とのまと桟敷おりしろう
現さらん毫は春太郎油むーの轉法輪
知ろう振の等極朱東門恵臣講訳の
蜂は巣ふとうとらをむ瓦ふかひ生れ

枕亭 椿人

ひとをさは
由良ふもあり
すくふ

○

海老蔵千手向は恵切 浅川宝 春人
いよ〳〵ふろうくをあれ
あをやかりの男ふも名を選く 桜樹菴 高人
今年けは世代弟ちくとい

○

蓉本のふ世ろ出ものを 浅草庵 市人
うれる墓ホあり一焼香 立川連 松根亭 武将

○

之途川米をは人をを
ふいさは人のあ
十日は見ろ念仏の百首と 鳥亭 嬰馬
宗貞の指をさす石なり

○

大悟の壁ヵ向島の閑をたゞしてハ閻浮提
内の大立者大極上品のうてなに登りてハ極楽
世界の巻頭たゞし拈華微笑の鼻をひねりて
嗚呼つゝもあき人の布もを残を目八と八と六十
四海の名人兎常遷流の早かりをとゝまさらめ
かゝるしるさらんやゝ　山東京傳

墨の目乃あるりてうれ白猿の
祖父のせりふ浄土双六

最中　万丸

助六乃ゆかりを其　仲頼
おりへはくるるを

五福亭　深丸

月の浦の神ゝの
はたらきをしるらん

飄月亭　紫丸

今ハ仏の世ハ浮土
ゆの国へ入らんとて行ましの
六十六部をまつりきやうこゝ

南呂堂　可貫

千穐王連

松雨亭　小松風

さらしくも しらきの御殿の 烟逐 皆くゆらせる たきものなりけり

をしからぬもあの世へ見をしぬきけり 夜鷹もとしも六十六字

桜川　慈悲成

有漏路よりいづく物ぞと 思ふらん あらはれ柄ゆ 鳥辺山の雲

汲舟

そらふしや やまし猪も 少しまず 安房の朝乃 河川 まてより

桜木　羊躬

皆人のをしむ浪乃 清白の玉 菜の葉のうまさをしらざらん

打出　巨植

白猿乃籠ともきらへるあれの いしさけるしハ我花浪の雨

会津　信友亭　与志美

[illegible]

暫乃うけい河ほ滝より様しき乃
らんも志をうまるあわれ魂　古朱亭　内墨

白藤二十二代紹しき[illegible]
[illegible]　止戈楼　間鷹

わたり川[illegible]二十二紹しの
[illegible]と祖父代乃[illegible]

極楽よりの町なしのけく　松風亭　空寂
[illegible]や[illegible]代運乃世[illegible]ら

角乃[illegible]人[illegible]八[illegible]
[illegible]の物[illegible]

西山楼　下住

錦繪を天[illegible]人間[illegible]　琴通合　英賀
[illegible]乃[illegible]

[illegible]　三番叟　早人
[illegible]

是[illegible]乃[illegible]
[illegible]

[illegible]乃[illegible]　恵比寿楼　内匠
[illegible]

定紋乃[illegible]　文窗　乃[illegible]
[illegible]

○[illegible]

春江亭

長生館 春明

蘭屋 [illegible]

長鯨丞 鷺洲

二井も[illegible]

蜀江亭 淩丸

豊 事成

○

偏祖右肩ハ[illegible]の紅蓮の花も[illegible]ハ桟敷よりも羅漢臺より弘誓乃川[illegible]白糸の素[illegible]浄土ハ丈入[illegible]

寄南樓 香保留

蓮の花は[illegible]白形の[illegible]白糸

○

[illegible]

桃花亭 路蝶

[illegible]

三味 一七

[illegible]

萩屋 裏住

[illegible]

嵐猛

[illegible]

西羽

[illegible]

○

[illegible]

百二

[illegible]

五陵

[illegible]

葫蘆

[illegible]

貫太

[illegible]

春好

[illegible]

菱川 宗理

眼下はる　外良うと乃所中ゝ　新境連

おもしあや　百万遍の霜はしまも　川旭

かゝるくもと　蓋乃六十六部うの事　泉舎

きらゝゝの　眼を祈りて言仏　海川

隈ゞてはれ　こもあもうぎやと牡丹　芳鶴

大鷹巣　西へ落もしく茅　百砂

紅蔦

芝屋乃三井は役をとるつゝ　有賀亭　琴成

ちもゝ花ゞかりとゝ　會津楼　持吉

つゞもゝく遠の海國へゆれて

こゝもすゝくゝ　古柳亭　枝成

ちゝく波玉ハゝもどもの中ハ

たゝ　水遊亭　船主

白樺ハ浮土宇ゝ隔居して

きもや十紙へよ極手へゆく

色猿の月ゝちゞ　正梅亭　芳浦

ゝりしくゝびも莫ゝる

市川と世よ名乗るきくぐみ
ゆうれを越人のかれ

玉川　六岡

白猿ハあるまぐるもの水晶乃
きくらくるのこすず　陽数の秋を

舎楽舎　友也

親玉の玉は風紙を陽数は
ちりとりつくあぎく斗を

寺月亭　はせ仙補

見物のこあひしるしるし知ぐら
ちなどふ猿しくぐ居る

寄妙亭　ひと祥安

手向ふるあるひしの市川は
くりうぶるものハ泪ふるくるを

桜　枝炭

白髪ふるまくし世ふふくぐ
をしや冥途よ向ハふるとも

清風亭　伊佐子

紫はゆうはは水を手向ふの
あり花要ふ入ふ替段乃鯉

五安臺　有恒

世の人乃をハふ徒し人まふ
秋葉のさうや三夢ふくらん

大倉菴　金光

招魂の法師する時ふくとくで
左を呼ふ笛はゆうしき

橘香亭　笑顔

こぐ手ふ矢の根五郎よ今ハ名を
さくるハ石のきくくるを

招留亭　二字寺

つまひきや芝居にあつて魂の
ぬけがら銭さへいれぬとは

還錦舎
安人

清からぬ鼻志やおかれしかへす
紙の銭までを我もめくりせり

酬酌亭
跡人

御佛の法剣子よふきて海鎖も
贔屓なる人の寄進かとみえけり

檜垣亭
仲乗

うき潤油も一河のなかれ如く
狂言綺語乃死出の山越

寿月亭
金花

尊さは桜かさねつきて南無阿弥
念佛百首くりかへす法の声なも

桜森
八重丸

ささく口りやよ往生ぐわり口
世上乃人は皆きりしき口

松月舎
垂蘿

やかましく今ぞ語るぞこし物どきの
物さしと棒目一人乃すきかし哉

鐘声舎
朋行

西方へ行し六部の名残りを
念佛坂にしまひてぞ見れ

埴生菴
侭住

わがしきは杵大明神も極楽の生れ
寺舞乃菩薩となりけれは

竹葉亭
諸躬

風のちる露は親むつの世では
二度三升とかへりぬるなりと

友垣亭
増成

千両の黄金佛の今も大極浄土往ぎわ　八算舎　兼一

小田原の外郎もうるる先　吟語楼　久住

知恵のをとく十万億土

景清をせめ念仏尋ねべし　天　宮筍

二界をとうふもうりてとうや
生死流転のあかりしてとうの
つのくも今ゑのやうに異なく

黄金　多丸

定まる生死流転の苦居ゐ
ふうくすす　親玉

千種三題

たのもしや奇青の石さかのそ
ほの世も苦しの居ほの乃様　白雪楼　真盛

名残をこの形のさ傍ま
ゆく極楽のかの夢の夢や　三五亭　ちやう

山人の命ふれとこの土乃
極楽へゆくてゆくん　五尾周　桂男

暫のうけもこの土へもなくまの
ゆくやりまの蓮の世とら　浮世合　十帰

[illegible]

衣高野　庸凡

[illegible]

高根　常空

[illegible]

[illegible]

[illegible]

本草舍　豊芳

[illegible]

[illegible]

芸中舍　文鼎

[illegible]

[illegible]

華の屋　油成

[illegible]

秣　仲成

[illegible]

浦内　秉言

[illegible]

奈部　純成

[illegible]

山田　早苗

しづかさハ鯰坊主も引こもる
裃乃素袍の死出乃けふ衣

有顙亭 肉成

かくだにも無常は風乃ふきたよ
終つゐまあいたれぞちりける

煮绐堂 瀧津

上品乃まいらち川と変へつゝらん
まろ黄金乃肌紙ぬぐ きえて

東西 南北

○

極楽乃存うちと本の白猿と
さとりくをしむ 大和魂

便々堂 仲澄

まつちくを勤し人ハ玉は下
鯖坊主もろ共生ん

一寸 法師

あはれ人の手向乃水やうす氷

川越楼 繁女

風やも瀬あらしは蒸揉香

同 通女

よそあはれもあはれ寒念仏

同 照女

さし出しも風の姿のあかりと
志づかしく こころあ
息もも見えぬそのかぎりに

文亭 一通

うゝ[illegible]も今さびくとさかり
我一春のとる古屋かな　福洲

あゝ清づゝもあるは面影を忘れがたく
生うりゝ画よりまさりけるら　千雀菴　繁見

面影や火桶の底の跡
○
あるものは画ハ画ふるゝ情義より　如月菴　馬丈
月代ちぐらく手の追善　千数菴　矢藤
君ゝあるは[illegible]やと[illegible]
芝ゝある[illegible]　諧南堂　眉住

叩きもはつりの[illegible]
見もせず市川　五代三郎
○
恋ゝくとさびる波の月ちらく
蓮はうてゝあるよ鼻の顔見勢
○
親方をひりさて[illegible]
行さまくとつまらぬくらく
○箱根山あゝ[illegible]常照院小惣後者
[illegible]ぐらい打葬礼乃
[illegible]子鳥は世の[illegible]

下総　銚子　天久
唯心斎　久路人
治呂菴　亀徳
鳥亭　柳馬

うゝ川とい生死流時の雲晴て
二重舞[illegible]すたる蓮葉

牛島のいおりをくもるひ出て
ものゝ名ゆゑとゝ　工藤も

佐賀一人の地へもとむくとハ
西へ立く風も弘拯言は紙よの人
紙のとゝつゆとうべどうひふ

御足袋所の女
うす柿式部

立川
銀馬

鶴も咲搖もちゆる世乃中ハ
行とゝく松ついの乃ちとも

養老亭
大馬

鳴神のもとに波乃大雨を
けせ乃波連のきゝくゆく雲

風麟堂
則人

○
大江をとゝく十萬億土ある
極楽へゆく　拙者　親方

二代目乃つゝ松
市川
新車

下總國猿嶋郡ちうた
成田やセ左馬木名

將門と味べゞ
ちゝらえび白猿も

楠生亭
英洲

六十ぐぐんまりは草市

出逢者をとゝ
きうふるゆ

岡安と思ひが
於志楼
金馬

鷺の村ゝ雲ちゝ
雀の村ゝ雲ちゝ

立川
談笑

市川の親玉寿者は菩薩
西へ入ゝ日向景清

白猿悼　砂邑亭文好

光堂を　矢乃根五郎社

をさそうや

ゆく駒の　吹き時宗

○

先ぶらく　神子達のうたの　百万遍乃　数珠はやし　竹竜　鳥萱

虚空よりの　花遍と　極楽乃　西の様子　阿陀のうんぶつ　不破　関人

年も　行きもの　世　富ふて　三國　雪成

ぶりぶりやと　くぶの　経文

安の　世ぶく　金箔つき　角部　獅丸

阿陀乃　浄土乃　仏　とるくて

土つぶくと　多ぶかもの　深江　菅道

今ハ　仏　ぶ　ぶ　田　玉　も　多

きし兜ど毋無常は風に飛とのり
そよぐさゝ兜に雲にいるつまり

新石丁 志がき

ゑのはは姿がれは世は紙のふれ
なふをかれどはらびは修行去

水車亭 水彦

毎勝や菊は着にやどりけし
あり明月乃つきや ときさくなさよ

青陽舎 白馬

極楽に此顔見へ世の初霜
なふみきしものとありし記む

松柳舎 恒蔭

袖笠にそらし泣すゝ時雨かな

越後高田 壷仙

まのあしさの桜と見くしらく秋乃夕は
月と眺めしも今はそのうきかりにとなかる
やうび世ほうしゆ此る病ひして仲の秋廿九日
とりふかよべのこをれときさえかくとありしはあわし
うの八今もかなくあらのてあらびそうろあまり小

二度なふめし時より思ひ出れ
花をも見ず日をも月よ麻ぬ夜も

燃節堂 松俊

親玉を中と名持大数多
かしとありける深菊見出る

五味 荘二

蓮葉へ今は東込乃まに連
ふまに録書文珠もありけり

前川 玉成

法ゐふゆく道とハうゐ〻ふ積れ
きれ〻きふ弱とうゐ枯しよ　木材連王盍　織人

光陰の矢の根五郎もとゞめ
浮世のうとゝ云とゝ浮ひ〻ふ　花鳥室　砂樂

あらし仏とふゆきとなのかゝよ是〻ふ
あさくまこゝろに寺の抱の立姿　百餘齋　志解笛

武道さゝるものつゝもあまきあし

江戸中ふぬ〻ふ洞乃ふるゐふを　唐杖　鹿師子丸
きりて浮土の花とゐ〻ふ

追加

浪花近辺をくまゝ〻ふ　浪花青〻園　艸坊
世ふ形〻ふやめ名後　荘言

糸紀あとも哥毋添山　枯尾花　路曉
○
行雲や又とゐ〻ふ月　臣撰　曙山
極楽乃ふ新見世中銀世界
○
毋切る紙子ふ打ち破ゐ　賀朝　之朝
景清ふ日ふ西山ふ枇杷の花
○
をゝやゝの宮ふ花の乃　浪華　市紅
ふとゝらびもまゝえんぐるゐを
川沿や遠〻千〻しよ場ふ　珉子
乃ふ打見ふ出の人だう子　中車
青山のゝきいて歩〻ふ　初朝

六の道十万世界も川乃花　馬十

○
ゆる新緑のおやまゆ合佛　盧笑

顔見世やちりぬるかぜ花　松下

○
彼岸より彼岸へ花　集道

きぬぎぬ雪ぞ

○
きりぎりすなくや小雨乃名ざかり　江棟

わしもやかぶ紀世　江鵞

異国なぐ時雨ゆくらん西乃雲　萬器

霜ふるまつのうら枝金や水仙花　機多

○
夜の太鼓ハしてふさくあるわびしさ乃つきも蟹と改人

指起の吟ゝ方行れば　千丈

顔見世ゝ明る日ゝ　尾陽

○
わびしさや　桂五

野ゝ方ゝ煙ゝ余ゝ乃ふら麥　仝

○
ゝふ　士朗

白樣死しゝて今本立とゝ

ゝふ

追悼

あさ顔の
夏ふかしとみの
田字苔
いやうえを思ふ
成田金持
蕃竜

屁焼猿人

古調

寿考堂ゴ存命ノウチ比ノ句ヲ初ノツク今又金持百首
ヨリ出ク極ホヒ詩壇ニ国産ヤウヤウ沖仏ヲ示ヲ

仲藏がよりおやとおもひ
ひ〜ゆらを南無阿弥陀佛　尚左堂　俊満

極楽乃新狂言と一つ〜ゝ
夢外郎　玄ゝ白積　黄琴亭　軸丸

志ら〜くと少めの花と陀羅尼初ざい
あ〜〜をとまり七左衛門　田舎　妹輔

舞壇でハ神もつゝ
人〜。仲よ今ゝ　玉鉾　二千丸

ゝゝ小皆志ら〜くと止〜を
ひき立ち〜南無阿弥陀佛　東々　色好

○

うき世後すき鬼ゝ[illegible]ひの書也
ゝや極ゝへ通ゝる花ゝち　愚楽齋

百八乃数珠かゝ[illegible]ゝ猛ど新むも　機　秋人
今ゝ[illegible]仲ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

あおさゝ[illegible]ゝ番付ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　友　仲好
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ人間ゝ[illegible]ゝ

蓮枯ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　若松　仲人
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　入船　風好
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

年ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　宇治　門浪
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

ゝ[illegible]ゝ今ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ面ゝ[illegible]ゝ　桃　種成
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

[illegible]ゝ結ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　陳ゝ亭
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　和樽

諸君子乃歌書文意して

今いくよ世界ふるほどよ　便々館湖鯉鮒

ちりぬるうちはいとゞ出て

却て中けん

○人生七十年及ち孤とも古来稀者と呼まし一箇ありのんで十年一むし五十六ゆく年暮を辞すしまし多銘をしこうる

式亭三馬

極樂へまつ隠居とハ情ゆや

六十六ゆ　七左ゑもんどの

○人くの手図は寄をうとく
なのまてもおれをせふ

白猿の追善とても志しをれ
いとゝみ社寄をゆ武なるみさう

○三都ゆ名のきとへも今ハ西方浄土
一蓮のうてゆ露は
ちゝ川とゝなき

蜀鶏園　廣道

蜀錦園　蔓人

数ゆ乃親玉

数もなをかくこと社葉の反古菴
ゆまつをさとみ田ま名のこのちりを

サ　亀子

○自張ま命をかゆる猿より
とあの一寄の名もかくやあく山の
かひなきくりくりまつこと声ゆて

白猿のゑんとうさ徒しそ
自も出ざるつごとり社ちん

烏亭馬馬

僧　阜嶺

念佛の百首をよみし白猿い
歌舞乃菩薩とこれをいふらん

跋

浮名屋主が病氣見舞に八乃字乃夜食を
もらひし文範先生が上下講中ヲしる萬
歳人の強飯盛出もし八飛出しに權者乃
盗出より或ハ將軍地を添ひ出來可
思議なる八時翁宗ハ權三が隣にありけると
わとら雪權者地法はなく文箱地藏の
中へ入かしら勝軍地藏乃出つまりにて開帳の
審瓊と讀く六十日成田乃開帳のごとし出合
葬式の供被とつゞく二十町詣宮乃

行列よろしき點しさしぞ字やまとよ葉乃
親方高麗屋を揚屋をはじめとして位牌を
おしつぎ香煙をさゝげて祈り出ださば法居
詞の里の子傳法秦太郎乃顔ひまで編笠を
のがれ杉戸をおしきて押入る寺門に成敗棒
ふみれバかたぐるよし如し唯ふうきれたやん
ことの世句の唱樂のおぶきよひかぶえも紫雲
かきれどとく與乃上におかれよと見る技しる生れ
俳優すべてに向ひ讀經人情ものあはれ
親玉くとなをし引道守の時東西くと制す

ゆ川えんぐん寺をぎうれ頼以共功德念佛百
一ゝうゝ百ゝゝく浅ゝゝゝく仕合者ゝも名物ゝゝも
こんゑ後者ゞ唐ゆゝゝ唐ゆゝゝ東夷南蛮西
戎北狄天地乾坤のあゝゞゝを出ゝゝ此度浄土
乃本舞臺へ還ゝ新糸の花をゝゝを滅ゝ
權化ゝゝゞゞゑゝゝとゝゞゞゝし名付る本名八還誉
浮本臺遊法子眠りの夢ハさめゝゝ

鶴町図書
花清主